

権力の言葉借りて、支部役員宅へ脅迫状。

九月三〇日の消印で、佐倉支部役員の幾人かにあてて、卑劣な「脅迫状」が送られてきた。千葉中央局投函の差出人不明のこの「脅迫状」は、ありもしないデタラメな言いがかりを並べた上で、

「私は貴殿より、事実をまげた誹謗中傷をうけ、名誉を傷けられた。本件に対し、私は誣告罪、人権侵害等を始め、刑事、民事と貴殿を被告人として、……法的手続きに移行せざるを得ませんので御了承願いたい。念の為申し伝えるものである。」

という、それ自体デタラメの低水準なものであるといえ、その権力だけの陰湿・卑劣な体質をあらわにしたものであり、断じて許せないものである。

追いつめられた「本部」のあがき

この卑劣・枯息な策動は、

第一に、「業務再開」路線なるものの破綻とゆきづまりをはっきりとさらけ出したものである。

「八四名で再開」と大言壮語したその足元で、内実はその半数にも満たず頭打ちであるばかりか、揭示一枚、交渉報告の一回たりとも職場で行われた気配はおろか、最も基本的な組合費の徴収も職場でままならぬという、およそ「業務」なるものと無縁な惨たんたる実態をさらけ出し、日毎に職場から見はなされつつあることの反映である。

第二に、とりわけ、「本部」反動分子や土屋粹の反労働者性は、今次「五五・一〇ダイ改」の中で鮮明に暴露され、一挙に不信と動揺が拡大しはじめた事へのあせりである。「本部」と土屋は、「五五・一〇」を通じて、自らの「組合員」すらもはつきりと裏切り、当局へ売り渡した。

そもそも、われわれが当初より指摘したように「貨物合理化」を認め、「乗務員運用合理化」率先協力をかけた「本部」反動分子の当局協力路線のもとでは、はじめから佐倉機関区や銚子運転区の仲間、とりわけ乗務員の利益を守り通すことなどできるはずもなく、動労千葉破壊と革マル派のセクト的利害のために適当に使い捨て利用されただけであることが誰の眼にもはつきりとつき出されてしまったことへのあせりである。

第三に、それと対照的に、堀口支部長を先頭とするわが動労千葉佐倉支部の役員・組合員の一体となった原則的な職場活動、それを包み支えた全支部の協力体制、正しい闘争方針が、しっかりと結合されて、今次「五五・一〇」での佐倉機関区乗務員削減攻撃を阻止し、大巾な要員バックを実現し、組合員の利益を真に守りぬき、来年三月のジェット決戦への勝利の展望をひらいたのである。この地道ではあるが着実な実績を背景に三次

にわたるオルグの中で多くの仲間が一人また一人と着実にわが動労千葉に結集し続けていることに対する「本部」反動分子の焦りと凶暴化以外の何ものでもない。

「組合費を払え。さもなければ……」
「遂に『態度保留』者をも脅迫！」

公言した「八四名」の半数以上から当然にもそっぽをむかれています。これにいら立った土屋粹らは『態度保留』中の仲間に対して、遂に「組合費を払え。払わないという者は脱退届をもってこい」なる暴論をもつての恫喝までくりひろげだしている。しかし、自らは「本部」から流される「対策費」で酒食におぼれながら、現場組合員のために何一つとして真剣にとり組もうともしない彼らの金権腐敗体質に多くの仲間の不信がついついくのは全く当然の話である。脅迫や恫喝、ましてや私利私欲や酒食・金品で組合員をつなぎとめることなど絶対にできないのだ。

「痛い目にあわせるぞ！」
「職場に押し入ってきた
革マル暴力分子・村上ら！」

この状況に焦った「本部」は、遂に札つきの革マル暴力分子・村上を先頭に多数が九月二十五日佐倉機関区に押し入ってきた。血迷った村上は、丁度オルグで居あわせた成田支部の役員に対し「テメエ銚子に来てもデカイ面しているらしいな。そのうち痛い目に合わせるぞ」なる断じて許せないテロ・暴力行為の宣言をした。当然にも全員から徹底糾弾されたのであるが、この村上のあせりと凶暴化の中に、「本部」反動分子の路線的破綻とそれ故の 動労千葉へのむきだしの暴力的破壊行動への意図をはつきりと見ることがができる。彼らによる職場破壊を許さず、動労千葉の旗のもとに、ガッチリと結集し、前進しよう！

全組合員・家族の強固な団結で組織を粉碎せよ！

「業務再開」路線の破綻にあせり 暴力的破壊行為に走る「本部」反動分子

三里塚・ジェット闘争貫徹 / 「国鉄35万人体制」粉碎！